

ITU-T SG15 WP1 会合 提出寄書 (パナソニック)

資料 2-伝-1-SG15-WP1-Q4-寄概-パナソニック(1) 寄書(1) 概要

ITU-T会合への提出寄書概要

(会合名：ITU-T SG15 WP1会合)

提出元：

(原案作成元) (注) パナソニック株式会社

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Request to mandate G.cx feature in G.9960 (G.hn) operating over a powerline medium		
	和訳	G.9960送信機が電力線上で動作する場合にG.cx機能を必須のものとする要求		
開催期間		2009年 5月15日	開催地	スイス国ジュネーブ市
課題番号	課題名	Transceivers for customer access and in-premises networking systems on metallic conductors		
4				
<p>提出寄書の意図・目的： <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>現在策定作業中のG.9960(G.hn)送信機が電力線上で動作する場合に、異種PLC共存方式(G.cx)機能を必須とすることを要求するものである。</p> <p>目的：勧告作成における基本方針に関するもの：G.hnの電力線上動作時におけるG.cx機能の必須化 〔本寄書は日本寄書としての提出を希望します〕</p> <p>本寄書は「日本として意思を明示することが必要又は有効なもの」と考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現世代技術のものから次世代技術への移行過程において、<u>ユーザおよび市場の混乱防止</u>の観点から日本として提案することが重要と考えます。 <p>(勧告化予定：G.cxは2009年9月のSG15会合でのコンセンストを目指し検討が続けられている。)</p>				
<p>寄書の内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2006年4月以降のG.hn審議と共に、異種PLC共存方式(G.cx)が2008年7月以来検討されてきた。G.cxは、検討が積み重ねられWorking Textの更新がおこなわれているが、G.hn動作時に必須の機能とすることについての合意に至っていない。必須とすることにより、ユーザおよび市場の混乱を低減することを目指す。 				
<p>勧告に対する外国の状況：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部既存PLC方式採用企業が共存ではなく接続性を主張し、共存方式に対して反対する懸念あり。 				
<p>他のSG、他の機関との関連：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IEEE P1901にてITU-T SG15/Q4とPLCに関するリエゾンのもと G.hnとコンパチブルなPHY/MAC仕様を含む「アクセス」「宅内」「共存方式」の検討がおこなわれている。 				

(注) 寄書原文を提出すること。